

SEINAN ラグビーマガジンカップ第 50 回九州ミニラグビー交歓会 supported by canterbury  
大会レポート

10月21日(土)22日(日)、並びに20日(金)代表者会議を含む3日間、JAPANBASE(福岡市東区香椎浜ふ頭)にて、SEINAN ラグビーマガジンカップ第50回九州ミニラグビー交歓会が開催されました。1973年に湯布院で開催されてから半世紀、九州の底辺を支える子ども達の歴史ある交流大会が秋空の下、盛大に開催されました。今大会は、記念大会と言うこともあり関東から渋谷インターナショナルラグビークラブ、関西から姫路ラグビースクール、中国地区から宇部小野田・山口ラグビースクールの3チームが招待され、九州の枠を超えた交流が行われました。全体では、30チーム(46スクール)の参加が見られ、2日間で白熱した試合が数多くみられました。

宮崎県からは、2チーム(4スクール)出場しました。高鍋・日南ラグビースクールと延岡少年・日向ラグビースクールがそれぞれ合同チームを結成し試合で経験を積みました。両チームともに、県内の大会、合同練習会等で顔なじみになっていたため、今回の大会では合同チームと思わせない息の合ったプレーを見せてくれました。同じ6年生がマッチアップする大会だけあって、どの選手も体を張り、仲間の為にサポートに走るなどチームプライドを強く持って戦い、大きく成長を見せてくれたと思います。それぞれ2日間で6試合を行い、他県のラグビースクールにもラグビー仲間ができたようでした。

恒例の各スクールから1名ずつ選出された当日限りのチームで戦うエキシビジョンマッチも盛り上がりました。私は、女子チームのサポートに入りましたが、果敢にアタックや体を張ってタックルに行く姿はとても勇敢でした。この試合でチームから選出されるベストプレイヤー賞に、高鍋ラグビースクール日野こまちさんが選ばれ表彰されました。後半からの出場でしたが、インパクトプレイヤーとして存分に貢献したパフォーマンスが評価されたようでした。

指導者も学びの2日間でした。渋谷インターナショナルラグビークラブの徳増浩司氏、パフォーマンスコンサルタント、元ラグビー日本代表今泉清氏の講演が行われました。私達の指導方法の資質向上や子ども達への声掛けはどのような言葉が必要か、何よりも最善の方法がないかなど考え方をいくつかご教示頂きました。

今回の大会は、試合中の指導者の指示が禁止された大会でした。子ども達がキャプテンを中心に選手同士で意見を出し合い、試合を創り上げていきました。子ども達の声が良く通り、フレッシュな感覚を覚えました。県内のチームもその他のチームも与えられたコンプライアンスを遵守し遂行しました。今後も、サイレントコーチングが当たり前の大会として各地で増えていくように思えます。指導者も多くの学びを得た大会であったと思います。

最後に、子ども達が元気にラグビーボールを持って走る姿は、本当に頼もしい限りです。九州の子ども達は、これまでもこれからも日本ラグビー界を盛り上げてくれる大切な宝です。今大会の終了と共に、次の50年に向けた1歩がはじまりました。キラキラした目で純粋にラグビーを楽しむ子ども達を増やし育成しながら、また来年九州ミニラグビー交歓会に宮崎県の子ども達を参加させたいと思いました。4スクールの選手、コーチングスタッフ、応援に駆けつけていただいた保護者の皆様、大会を支えた普及育成委員会メンバー本当にお疲れさまでした。(文責 宮崎県普及育成委員会ミニ部門長 中瀬 修)